

医薬品 研究報告 調査報告書

<p>識別番号・報告回数</p>		<p>報告日</p>	<p>第一報入手日 2005. 9. 26</p>	<p>新医薬品等の区分 該当なし</p>	<p>機構処理欄</p>
<p>一般的名称</p>	<p>解凍人赤血球濃厚液</p>	<p>研究報告の公表状況</p>	<p>Suzuki T, Omata K, Satoh T, Miyasaka T, Arai C, Maeda M, Matsuno T, Miyamura T. J Clin Microbiol. 2005 Sep;43(9):4413-7.</p>	<p>公表国</p>	
<p>販売名(企業名)</p>	<p>解凍赤血球濃厚液「日赤」(日本赤十字社) 照射解凍赤血球濃厚液「日赤」(日本赤十字社)</p>			<p>日本</p>	
<p>研究報告の概要</p>	<p>○HCV感染患者の唾液及び歯肉溝滲出液におけるC型肝炎ウイルス(HCV)-RNAの定量的検出 血液以外の体液におけるC型肝炎ウイルス(HCV)の検出は、考えられる経口ウイルス感染経路を評価する際に重要である。しかし、HCV感染における口腔液の役割は、依然として議論の余地がある。本稿では、HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNAを定量的に測定した。唾液検体が陰性であったほとんどの患者(18名中14名、78%)で、GCFにHCV-RNAが認められた。ほとんどの患者(26名中20名、77%)で、唾液中よりGCF中のHCV-RNA値が高かった。血清中ウイルス量と唾液またはGCF中のHCV値の間に統計学的に有意な相関関係は認められなかったが、血清中HCV量が低い患者は、唾液中に検出可能なHCVを有している可能性が低かった。以上の結果は医療従事者に関し重要な意味を持ち、HCV感染の経口経路の意義を理解するためにデザインされた疫学的研究が要求されることを示唆するものである。</p>				<p>使用上の注意記載状況・ その他参考事項等</p> <p>解凍赤血球濃厚液「日赤」 照射解凍赤血球濃厚液「日赤」</p> <p>血液を介するウイルス、 細菌、原虫等の感染 vCJD等の伝播のリスク</p>
<p>報告企業の意見</p>		<p>今後の対応</p>			
<p>HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNAを定量的に測定したところ、唾液検体が陰性であったほとんどの患者でGCFにHCV-RNAが認められたとの報告である。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートについて考慮する必要がある。</p>		<p>HCV感染の新たな伝播ルート等について、今後も情報の収集に努める。</p>			

16